

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	Robson10 分類を用いた帝王切開率上昇要因の検討
研究責任者	戸村光里
研究機関名	日本赤十字社医療センター 産婦人科
研究目的と意義	世界的に帝王切開率は上昇しています。帝王切開術は様々な周産期リスクの要因となりうるため、適応は厳密に判断すべきです。WHO（世界保健機構）は2015年に帝王切開率の比較検討に用いられる分類方法としてRobson10分類を提示しました。当センターでの帝王切開率も徐々に上昇傾向にあるため、帝王切開の適応が適正なものなのか検討をする必要があると考えました。そこで、WHOが提唱しているRobson10分類を用いて帝王切開率の変動や傾向、帝王切開率が上昇している原因を調査しました。この研究結果をふまえて、今後の適切な治療へつなげていきたいと考えています。
研究方法	<p>対象は2008年1月～2018年12月の間に当センターで分娩となった方です。診療上必要性をもって行われたこれまでの診療録の内容（妊娠・分娩の経過や帝王切開となった原因など）や当センターで作成している分娩台帳を元に、後方視的に解析します。</p> <p>調査項目は年齢、分娩歴、分娩週数、胎位、胎数、既往帝王切開後妊娠、自然な陣痛発来の有無、既往歴、分娩時間、分娩が帝王切開の場合は帝王切開となった理由になります。</p> <p>研究結果は学会で公表されます。</p> <p>倫理的配慮：解析は、個人情報保護に十分配慮した上で行います。個人名が特定されないよう、患者さんの情報は匿名化されます。上記対象に該当する方で、本研究への登録を希望されない場合は、下記までご連絡ください。登録を希望されなくても不利益を被ることはありません。</p>
問い合わせ先	<p>日本赤十字社医療センター 産婦人科</p> <p>〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22</p> <p>担当者：戸村 光里</p> <p>TEL：03-3400-1311 FAX：03-3409-1604</p>